令和７年度

授業改善推進プラン

小平市立花小金井小学校

○日本国憲法
○教育基本法
○学校教育法
○小学校学習指導要領
○東京都教育委員会の教育目標
○小平市教育委員会の教育目標

【学校教育目標】

人権尊重の精神を基盤に、人間性豊かでたくましく生きる児童を育成する。

○かしこく　主体的に問題解決に取り組み、自分の考えを表現できるこども
○つよく　健康でたくましい心身をもち、目標に向かって粘り強く努力するこども
◎やさしい子　自分も友達も大切にするこども

○学校や地域の実態
○児童の実態
○地域社会・保護者の願い
○教師の願い
○時代や社会の要請

【目指す学校像】

「未来への夢や希望が抱け、友達とかかわり学ぶ楽しさがいっぱいの学校」
○こどもの未来を切り拓く力を育てるために、自立に向かう豊かな学びや確かな育ちのある学びの場
○教職員がこどもの個性を見取り、一人一人のよさや可能性を生かしながら長所を認め、伸ばしていく

【「学力向上」のための基本方針】

（1）　基礎学力の定着
（2）　思考力・判断力・表現力の育成
（3）　読書活動の推進
（4）　補充学習
（5）　情報活用能力の育成
（6）　ユニバーサルデザインに基づいた分かりやすい授業
（7）　教育課程の適正な進行管理
（8）　授業力の向上

【 指 導 の 重 点 】

【学習指導の重点】

○算数における習熟度別指導の実施と東京ベーシック・ドリルの活用による基礎学力の定着
○高学年の専科指導体制と教科担任制の実施
○個別最適化した学びと協働的な学びの一体的な充実につながる授業におけるICTの活用
○低、中、高学年別の読書マラソンや「花小おすすめの本１００冊」等の取組による読書活動の充実
○学習者用端末を活用した花小家庭学習スタイルの検討・実施

【総合的な学習の時間の指導の重点】

○各教科と関連させた横断的・総合的な学習を通して、自ら課題を見つけ、主体的に考え探究する力を育てる。
○学校や地域の特色を生かした単元を開発し身近な課題を通して実感を伴った理解をするとともに地域への愛着を育む。
○外部講師による授業、地域人材による授業支援を積極的に取り入れ、体験的に学ぶ。
○ICT機器を積極的に活用し、ICTによる表現力、コミュニケーション能力を高める。

【道徳教育の指導の重点】

○全教育活動を通じて道徳教育を行う。
○「自分も人も大切にする子」を道徳教育の重点とする。
○道徳的実践意欲と態度を養う。
○長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導により、道徳的実践につなげていく。
○人とのかかわりをよりよいものにし、互いに高め合い、向上しようとする意欲を育てる。
○年３回の「いじめ防止授業」を位置付けて実践する。

【生活指導の重点】

○節度ある生活を心がけ、基本的生活習慣の定着を図る。進んで挨拶ができる児童の育成を目指す。
○家庭、地域社会及び関係諸機関と連携し、一人一人の個性を尊重しながら健全育成の充実に努める。
○研修会等を通して児童理解を深め、教職員の共通理解のもとに実態に即した指導を行う。
○いじめや不登校、配慮を要する児童に対し、組織的対応を柱に迅速で適切な指導に努める。
○保護者との連携を密にし、共に生活指導上の問題に取り組む。

【進路指導の重点】

・自分のよさに気付き、将来の生き方や生活について前向きに考え、行動することもの育成
・集団の一員として基本的なルールや生活習慣を身に付けているこどもの育成
・自分の役割を自覚し、深く考え、意欲的に取り組むこどもの育成
・あいさつや相手を大切にした言動など、友達とのコミュニケーションがとれるこどもの育成

【特別活動の指導の重点】

○学級や学校での生活をより良くするための課題を見いだし、集団としての合意形成を行い、自己の課題解決、将来の生きる力を描くための意思決定ができる資質・能力の育成
○異年齢の児童同士で協力し、自主的・実践的に取り組む活動を通して、自己実現を図ろうとする態度の育成

授業改善に向けた視点・手だて

教育課程編成	指導内容・指導方法の工夫	評価活動の工夫	校内研究・研修	家庭や地域社会との連携	学習環境の整備
○教育課程の適正な進行管理による授業時間確保 ○月に１回の個別指導や長期休業中の補習教室の設定と実施 ○読書旬間の設定 ○小中連携の視点を踏まえた教育課程の編成	○ICTを効果的に活用した授業改善 ○ユニバーサルデザインに基づいた分かりやすい授業 （小平これだけは）	○適正な評価計画・評価規準に基づいた評価の実施 ○教師による授業の自己評価	○校内研究の充実 ・学級活動を通して、児童の自己肯定感、自己有用感を高める ・教員の授業力向上 ○他校の研究発表に学ぶ体制づくり ○研究推進委員会による教育情報、指導事例に関する情報発信 ○OJTの充実	○HP・学校便り、学級通信を活用した広報活動の充実 ○学校支援コーディネーターとの連携 ○学校支援ボランティアとの連携 ○コミュニティ・スクールとして、保護者、地域による外部評価の活用	○低学年の椅子に消音キャップ設置 ○教室の前面の整備 ○ICTの活用 ○学年園整備 ・畑、水田の整備 ○学校図書館の充実

授業改善推進プランの活用
■自己申告書（学習指導）に、授業改善推進プランとの関連を示し、授業づくりに関する振り返りができるようにする。